世界の国を知る 世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

アンゴラ共和国

【表紙の写真】

川で洗濯などをする人々（左上）

アンゴラの子どもたち（右下）

難民を助ける会

Contents

01 こんな想いを込めました!
02 こんな教材です!
03 なぜアンゴラ共和国?

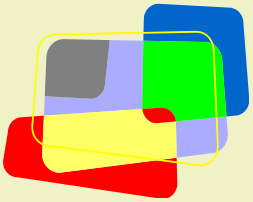
第 1 章 アンゴラってどんな国？
＝奇想天外！大地を感じられる国＝
05 アンゴラってこんなところ!
07 アンゴラのウソ?ホント?
09 アンゴラフード!めしあがれ
11 ちょっとブレイク
〜アンゴラ料理 ムアンバの作り方〜

第 2 章 へぇ〜！アンゴラと日本
13 比べてみよう!アンゴラと日本の学校
15 ちょっとブレイク
〜希少植物 ウィルウェッチア〜

第 3 章 一緒に考えよう！こんな課題
17 赤ちゃんとお母さんのいのち
19 地雷のある生活
21 フォトギャラリー
〜アンゴラ大自然〜

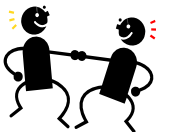
第 4 章 そして未来へ
23 世界を変えるスピーチ
25 この星をこれ以上こわし続けないで
〜12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ〜

★参考資料★
29 目で見るアンゴラ
31 アンゴラ地図
33 参考文献・データ等の出典
33 ご協力いただいた方たち
33 2010年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



● 国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」はけっして難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

● 人の顔が見える教材をつくりたい！

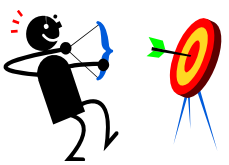
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることももちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へぇ〜。こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。 そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

● 世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさんの問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくるとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係がつくれたらいいなと思います。

● 未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。 地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起こっていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起こっていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

●ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター（参加型プログラムの進行役）や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

●参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえるようなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にしていただければと思います。

●きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、アンゴラのほんの一面です。本書だけでアンゴラのすべてがわかるわけではありません。アンゴラに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

●使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

●カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、（財）愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または（財）愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

●本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。 なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。

- 参加型のプログラムです。必要に応じてコピーし、配布してください。
- プログラムに関する説明です。ファシリテーター・先生用です。
- プログラムのねらいです。
- ちょっとブレイク一口コラムです。
- プログラムに使う資料です。必要に応じてコピーし配布してください。
- コピーし、カード等に切り離して使ってください。
- プログラムで模造紙を使います。
- プログラムでマジックを使います。
- プログラムで付箋を使います。
- プログラムでA4用紙を使います。裏紙等を活用してください。
- データ等の出典です。
- 写真の撮影者です。

なぜアンゴラ？

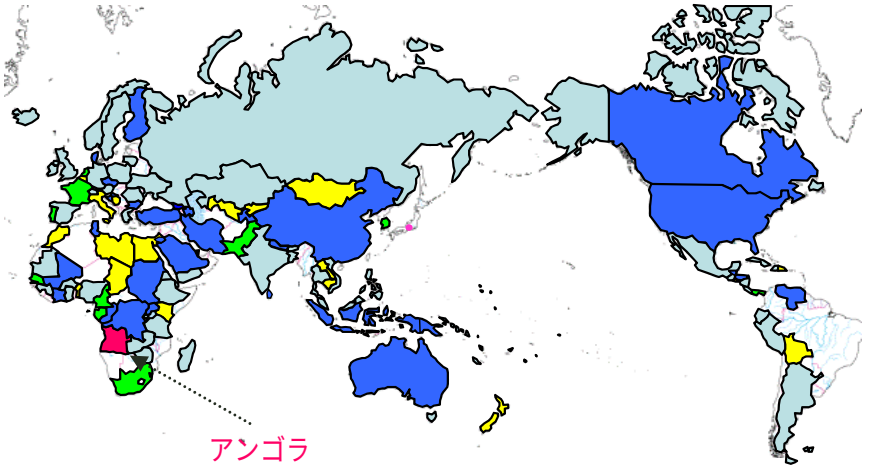
始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国フレンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国（日本を除く）のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国フレンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

●世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
●迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
●万博会場内だけではなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
●地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
●地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国フレンドシップ事業」をさらに広げ、
つなげていこうと作成したのがこの教材です。
そして、**アンゴラ**のホームシティは、**春日町**でした。

愛知万博／アフリカ共同館

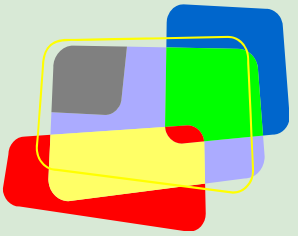


2009年度作成予定（33カ国）	アゼルバイジャン共和国 アメリカ合衆国 アンゴラ共和国 イラン・イスラム共和国 インドネシア共和国 ウガンダ共和国 オーストラリア連邦 カナダ グルジア コートジボワール共和国 コンゴ共和国 サントメ・プリンシペ民主共和国 スーダン共和国 スリランカ民主社会主義共和国 タイ王国 タジキスタン共和国 中華人民共和国 チュニジア共和国 デンマーク王国 トルコ共和国 ネパール連邦民主共和国 パプアニューギニア独立国 フィンランド共和国 ブルガリア共和国 ベネズエラ・ボリバル共和国 ベリーズ ボスニア・ヘルツェゴビナ ホンジュラス共和国 マーシャル諸島共和国 マリ共和国 ヨルダン・ハシュミット王国 リトアニア共和国 ルワンダ共和国
2008年度作成（20カ国）	イタリア共和国 ウズベキスタン共和国 エジプト・アラブ共和国 エルサルバドル共和国 カンボジア王国 キリバス共和国 キルギス共和国 ケニア共和国 サウジアラビア王国 大リビア・アラブ社会主義人民ジャマーヒリーヤ国 チャド共和国 ドミニカ共和国 ニュージーランド フィジー諸島共和国 ベナン共和国 ベルギー王国 ボリビア共和国 モロッコ王国 モンゴル国 ラオス人民民主共和国
2007年度作成（10カ国）	オランダ王国 ガボン共和国 カメルーン共和国 セネガル共和国 大韓民国 パキスタン・イスラム共和国 パナマ共和国 フランス共和国 ポルトガル共和国 南アフリカ共和国

第1章

アンゴラってどんな国？

＝奇想天外！大地を感じられる国＝



アンゴラってこんなところ！

アンゴラって聞いたことはあるけど、実際どこまでアンゴラのこと知っているだろう?
みんなでアンゴラのこと知ってみよう!

1 アンゴラはアフリカの国ですが、いったいどこでしょうか。
ここだと思うところに印をつけてみましょう!

2 次のうち、どれがアンゴラの写真でしょう?

A

B

C

在アンゴラ日本国大使館ウェブサイト

3 アンゴラ人はどんな言葉を使っているでしょう。

A フランス語　　B 英語　　C ポルトガル語

4 アンゴラの人口は何人でしょう。

A 約1700万人　　B 約3700万人　　C 約5700万人

5 右の画像はアンゴラの国章です。国章に描かれているものにはそれぞれ意味があります。どんな意味が込められているのか考えてみましょう。

P.5のこたえと解説です。

アンゴラがどういう国なのか、まずは全体像をつかもう。

1 アンゴラの国土は124万7,000平方キロメートルで、ニジェールに次いで世界で23番目に大きいです。ちなみに日本の約3．3倍の大きさです。

アンゴラ本土（カビンダ州を除く地域）は、南はナミビア、東はザンビア、北はコンゴ民主共和国と国境を接続し、飛び地であるカビンダ州はコンゴ民主共和国とコンゴ共和国に挟まれています。寒流であるベンゲラ海流の影響で、沿岸部の気候は穏やかです。

2 正解は **全部！** です。

写真は全てアンゴラの首都ルアンダの写真です。大西洋に面し、アンゴラの主要港であるとともに行政の中心でもあります。およそ300万人が住んでいます。

A 市内のメインストリートの一つ。マージナル通りの写真です。近年、油田からの産油量が急速に増加し、外国のメジャー石油企業がルアンダ市にオフィスを構え、それらに関連する企業の外国人がルアンダ市内に数多く生活するようになりました。

B ルアンダ市内の写真です。雨が降ると道路が冠水することもあり、車はもちろん、徒歩で移動できないこともあります。

C ルアンダ港を見下ろした写真です。日常生活物資、生鮮食料品等もほとんどが輸入されていることから、値段が極めて高く、ルアンダ市はここ数年、外国人ビジネスマンにとって世界で最も物価の高い都市の一つとしてランクインされています。

3 C **ポルトガル語**

アンゴラの公用語はポルトガル語です。それ以外にも、ウンブンヅ語やキンブンツ語、キコンゴ語など様々な言葉が使われています。

4 A **約1，700万人**

愛知、岐阜、三重、静岡の4県の合計がおよそ約1525万人なので、それよりも多い数字です。ちなみにこの人口とほぼ同じ人口なのが中国の北京市です。

5 アンゴラ共和国の国章は歯車とトウモロコシ、コーヒー及び綿花の枝が描かれています。それぞれ、労働者、産業、農夫及び農産業を象徴し、その下には教育と文化の象徴、開かれた本があります。朝日は新国家を象徴し、中央にはカタナと鍬が描かれており、労働と戦いの始まりを意味します。また、その上に国際団結と開発のシンボル、星があります。

アンゴラのウソ？ホント？

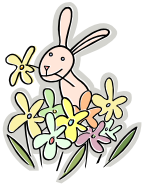
次の問題ってどれがホントでどれがウソなんだろう?みんなで考えてみよう!

1 実はアンゴラの首都ルアンダは東京よりも物価が高いです。

2 アンゴラの国旗は、黒、赤、黄色の三色ですが赤色は太陽を表しています。

3 アンゴラでよく採れる宝石は、ズバリ真っ赤なルビーです。

4 アンゴラウサギというウサギがいますが、アンゴラで育てられたからアンゴラウサギと言います。

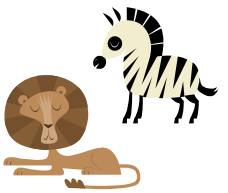


5 アンゴラの紙幣はすべて同じ絵が描かれています。

6 実はサンバはアンゴラで生まれたのです。

7 アンゴラではポルトガル語が公用語ですが、実はアンゴラ人はバイリンガルの人が多いです。

8 アンゴラにはシマウマやライオンといった動物が自然に生息しています。



1 ○ ホント

アンゴラは2002年に内戦が終結した後、石油やダイヤモンド収入による経済成長により物価が高騰していて、外国人駐在員等の生活費が最も高い都市にアンゴラの首都ルアンダがあげられています。首都中心部の富裕層向けスーパーマーケットでは、トマト6個の値段が800クワンザ（約1200円）。白菜1個で2000クワンザ（約3000円）。キャベツ1個400クワンザ（約600円）の値段で出回っており、それでも商品は売れています。

2 × ウソ

アンゴラの国旗の赤は独立で流れた血の色を表しています。ちなみに、黄色は国の富、黒はアフリカ大陸、さらに国旗の真ん中に描かれている歯車は工業を、鉈（なた）は農業、星は国のまとまりを表しています。

3 × ウソ

アンゴラでよく採れるのはダイヤモンドです。アンゴラはダイヤモンドや鉄鉱石、石油など地下資源の豊かな国です。

4 × ウソ

アンゴラウサギはトルコのアンカラ地方で生まれました。日本だとどちらも発音が同じなのでアンゴラ生まれだと考えられがちですが、実は英語に直してみるとアンゴラウサギはangora、国名のアンゴラはangolaとなります。ちなみにアンゴラウサギのアンゴラとはアンカラ地方の旧称です。

5 ○ ホント

日本では千円札、五千円札、一万円札、全て違う人の絵が描かれていますが、アンゴラではすべて同じ人物の肖像画が描かれています。紙幣に描かれている肖像画は歴代大統領ネトとドス・サントスです。

在アンゴラ日本国大使館

6 ○ ホント

ブラジルに連れて来られた奴隷の多くが、アンゴラからのアフリカ人であったことから、アンゴラの伝統音楽のセンバ(Semba)が、ブラジルのサンバの元だと言われています。アンゴラのセンバは古代のリズムであり、お尻とお腹のなめらかなくねりを伴っています。センバは、17世紀にルアンダ、ベンゲラなどのアゴラの海岸地帯で発展し、元々、豊穣、結婚、子供の誕生などを祝って踊られました。

7 ○ ホント

1975年までアンゴラはスペインのお隣の国、ポルトガルの植民地でした。そして独立後もポルトガル語はアンゴラの公用語として使われ続けていますが、当然のことながら昔から独自の言語が存在しています。職場や学校ではポルトガル語で「ボンディア!」と挨拶しますが、家族にはチョクウェ語で「ムイウェヌ!」と言ったりします。ちなみにアンゴラには50前後の言語が話されていると言われています。

8 ○ ホント

ケニアや南アフリカ共和国のように、アンゴラも今現在も広大な自然にライオンやシマウマといった大型動物が生息しています。

アンゴラフード！めしあがれ

アンゴラには日本人が見たことのないものが数多くあります。

1 写真はアンゴラの料理です。写真を見てどんな材料が使われているか下のカードから選んでみましょう。

A

B

C

D

オクラ	ほうれん草	カンバチ	米	マンジョッカ芋
レバー	トマト	赤豆	たまねぎ	トウモロコシ

A:りすぼんうまいもの日記 B:大使館の食卓 C・D:2人の世界旅

ちょっとブレイク

アンゴラ料理　ムアンバの作り方

今回はアンゴラの伝統料理として、アンゴラ国民に愛され続けている「ムアンバ」のレシピを紹介します。

ムアンバ（左）とフンジ（右）

世界の料理

材料（4人分）

若鶏肉	500cc
油	30cc
たまねぎ	中1個
にんにく	1かけ
ローリエ	1枚
パームオイル	20cc
赤どうがらし	1個
オクラ	150g
塩、コショウ	適量
レモン汁	大さじ1

作り方

1. たまねぎをみじん切り、オクラは両端を切って半分に切る。にんにく・とうがらしは適当な大きさに切る。若鶏肉は食べやすい大きさにカットします。

2. 若鶏肉、脂、たまねぎ、にんにく、ローリエの葉を大きめの鍋に入れ、中火で熱します。

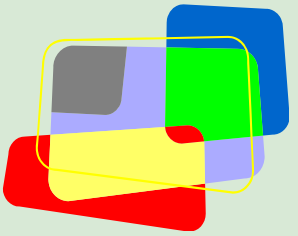
3. 2の材料をよく混ぜながら必要に応じて水を加えます。肉に火が通るまで中火で熱します。

4. お肉に火が通ったら、パームオイルと赤とうがらし、オクラを加えて、さらに塩、コショウ、レモン汁を加えて弱火で15分ほど煮たら出来上がりです！

＊ 材料を切ったら、あとは鍋で煮込んでいくだけなので手間もかからず簡単に作れてしまう料理です。アンゴラでは、このムアンバと一緒に「フンジ」と呼ばれるキャッサバの粉をお湯でといてこねた粘り気のあるお団子のような主食と一緒に、手でちぎったフンジをこねたムアンバに付けながらいただきます。

第2章

へぇ〜！アンゴラと日本



比べてみよう！アンゴラと日本の学校

写真はアンゴラの子どもたちの様子です。

1 写真を見て日本の子どもたちの生活と同じところ、違うところを探してみましょう。

A

B

C

D

E

F

D：日本ユニセフ協会　E：在アンゴラ日本国大使館　それ以外：難民助ける会

P.13のこたえと解説です。

アンゴラと日本の子ども達の生活を
比べることで、アンゴラを身近に感じよう。

A アンゴラでは半日や3日、長いときは1週間の断水が日常茶飯事です。そのため水くみを日課としている子どもたちがいます。また、日常生活の中で森や林に入ってマキを集めたり、食料として、果物やキノコなどを森や林から採取する子どももいます。

B アンゴラは出生率が高く、一つの家族に子どもが9人というのも珍しくはありません。

C 子どもたちが空気の無くなった布製のボールでサッカーをしている風景です。アンゴラ出身の有名なサッカー選手もいるため、アンゴラではサッカーは大人気のスポーツです。2006年のサッカーワールドカップの時は、ルアンダ市内の道路から人がいなくなり、乗り合いバスもほとんど仕事をやめ、警察や強盗なども見当たらなくなったほど、試合に釘付けになったのです。

D 教室で教科書を読み上げる子どもです。

E ポルトガル植民地時代に立てられた小学校です。古い校舎ですが、子どもたちはここで授業を受けます。

F 日本では学校に行くために筆箱、教科書、ノートなどをランドセルに入れて持って行きますが、アンゴラでは学校に行くためにプラスチックのイスを持っていく子どもたちもいます。

アンゴラの教育制度

アンゴラの義務教育は5歳～9歳（0年生～4年生）までとなっています。年度は2月15日から始まり11月15日には 終わります。その年の2月14日までに満5歳になる子どもが同年の2月15日に入学します。

低所得者層の子どもたちは無料の公立学校に通うことが多いですが、富裕層の子女はおおむね米国系もしくはポルトガル系の私立学校に通います。

就学前教育で義務教育ではない1歳～4歳を対象とした有料の幼稚園が存在し、歌や絵などの基礎教育を受けることができます。公立学校は5歳～17歳まで学費が無料になっていますが、就学率は必ずしも高くはありません。

カリキュラムは国語、歴史、地理、数学、科学、外国語などで、授業はポルトガル語と英語で行われます。4年生の時に進路を選定し、複数用意された講座から、目的にあった組み合わせを選択します。4年生は義務教育修了年でもあるので、進学か就職かの選択も行います。

ちなみに、義務教育が終了した後は、中等科が10歳～13歳（5年生～8年生）の3年間、高等科が14歳～17歳（9年生～12年生）の3年間、そして大学が18歳～22歳（1年生から5年生）となっています。

日本政府、小学校を建設

2007年、日本はユニセフを通じてアンゴラの小学校建設を支援することを決めました。これにより、アンゴラ政府は新たに1万6200人の子ども達が学校に通えるようになると見込み、校舎の建設だけでなく、PTA組織化や衛生教育にも力を注いでいます。

日本政府は、これまでにもアンゴラの社会開発分野において、さまざまな活動を行なってきましたが、ユニセフを通じて教育分野における支援を行なったのは今回が初めてです。これは、アンゴラ政府およびアンゴラの人々が内戦により国内全土で何千もの学校が破壊されたという壊滅的な状況を克服していき、日本の戦後がそうであったように、アンゴラの家族が通常の生活に戻り、子ども達が毎朝笑顔で学校に通えるようにしていきたいという日本の想いがあります。

難民を助ける会

奇想天外！！希少植物　ウィルウェッチア

在アンゴラ日本国大使館

1859年にオーストリアの探検家ウェルウィッチによってアンゴラで発見されました。その珍奇な姿から、日本名では「奇想天外」とも呼ばれます。ユリ科のオモトに似ていることから、「サバクオモト」と呼ばれることもあります。

葉は帯状で、生涯1対2枚の葉だけを伸ばし続けますが、風などにより平行脈に沿って裂けるため、多数の葉が伸びているようにも見えます。長寿の植物としても知られており、現地では推定約1000年の固体もあります。中心にある黒い部分は1年に1mmしか成長しないということから、写真のウィルウェッチアは1600歳と言われています。

ウィルウェッチアには水のない砂漠で長生きするための秘訣があります。葉の裏側につく露を吸収し、先端ではなく葉基からどんどん新しい葉を生み出すのです。そのため、1000年でも生きられるのです。

動物がウィルウェッチアの葉を食べても消化できません。雄株と雌株に分かれて生息していますが、ウィルウェッチア・ビートルと呼ばれるカブトムシのような昆虫が花粉を運び、受粉します。

現在では世界中の植物園などで植栽されていますが、種子から育った個体が初めて種子を作るまでには、約25年かかるといわれています。

ウィルウェッチアの切手

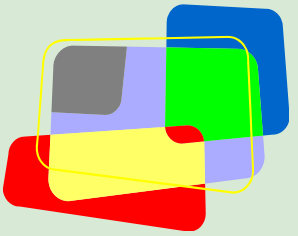
ウィルウェッチアビートル

雄株と雌株

切手：切手植物園　それ以外：在アンゴラ日本国大使館

第3章

一緒に考えよう！こんな課題



赤ちゃんとお母さんのいのち

アンゴラは赤ちゃんの死亡率が高い国の一つと言われています。

1 アンゴラで出産を終えたフェルナンダさんから以下のような手紙が届きました。さっそく読んでみましょう。どのようなことを感じましたか。

元気な赤ちゃんを産みたい！

私はアンゴラのグエヴェ村に住むフェルナンダです。お腹を痛めて生んだ最初の子どもは生後1週間で亡くなってしまいました。病院や母親支援センターまで行くのに、二人の子どもたちを抱いて片道7kmを歩いていかなければなりません。村の奥に住む母親も私と同じ状況です。しかも妊娠中に3回ワクチン接種すれば子どもたちも死なずに済んだはずです。適切な保健ケアが整っていないために、たくさんの子どもが亡くなっています。

また、アンゴラでは出産時の介助方法の訓練を受けた保健員の介助なしで自宅出産する母親がたくさんいます。それも当たり前のように行われています。子どもを失うという悲しみを経験したのは私だけではありません。多くの母親たちが同じような悲しみを味わっているのです。

2 アンゴラは世界で2番目に乳幼児死亡率が高い国です。その最大の原因はマラリア。私たち日本人にはあまりなじみのない病気ですが、いったいどのような病気なのでしょうか。調べてみましょう。

3 もしも日本でマラリアが大流行したらどんなことが起こると思いますか。模造紙に思いつくだけ書いてみましょう。

4 それらの病気を亡くすためにアンゴラで活動している「難民を助ける会」という日本のNGOがあります。どのような活動をしているのでしょうか。グループで調べて活動を紹介する新聞を作ってみましょう。

5 マラリアで亡くなる人を減らすために、私たちにもできることはあるでしょうか？
みんなで考えてみましょう。

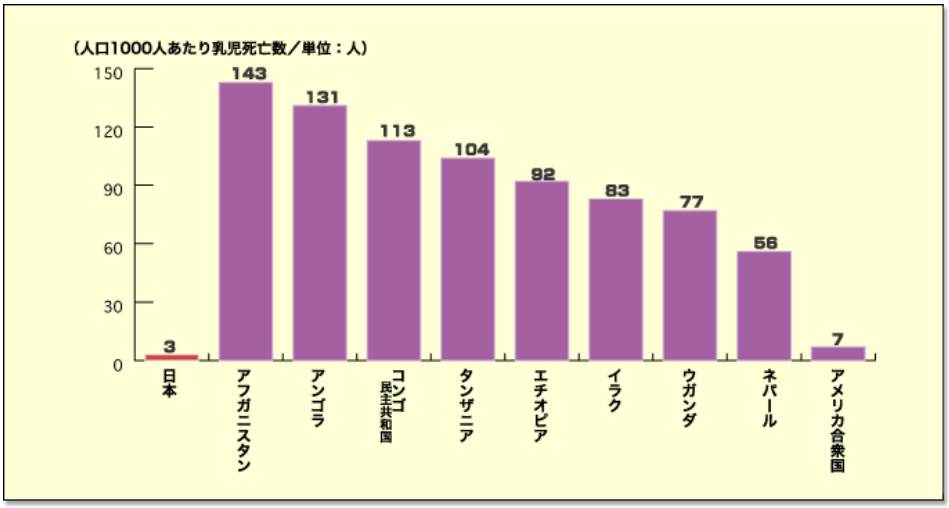
母親とその子どもたち

難民を助ける会

P.17のこたえと解説です。

アンゴラの乳幼児死亡率を通して、保健衛生がいかに大事かを学びましょう。

アンゴラの乳児死亡率



上のグラフは乳児死亡率のグラフです。乳児死亡率とは年間の1000出産あたりの生後1年未満の死亡数を指し、グラフからアンゴラでは日本の約47倍の死亡率であることがわかります。アンゴラ以外でも、適切な処置が行えず、命を落としてしまった赤ちゃんがたくさんいるのです。

外務省「探検しよう!みんなの地球」

アンゴラにおけるマラリア

現在、約107の国と地域でマラリアに感染する恐れがあります。マラリアとはマラリア原虫による伝染病で、マラリア蚊に刺されると、その刺口から侵入した原虫が赤血球内で増殖して赤血球そのものを破壊します。

マラリア感染者は毎年3億5000万人から5億人に上ります。死者は年間100～200万人に上り、マラリアによる死者の80%以上がアフリカ諸国の人々です。サハラ以南のアフリカでは30秒に1人がマラリアでなくなっており、その大半が子どもです。

アンゴラでは子どもの死亡原因の68%がマラリアによるものです。また、25%の妊婦がマラリアで亡くなっています。病院や医療施設の利用者の35%、入院患者の25%がマラリア患者です。

すぐに薬を飲めば治せますが、貧しくて薬が買えない、薬のある診療所まで遠過ぎるなどの理由で毎年多くの子どもの命が奪われています。頭痛や熱といったかかり始めの症状を母親が風邪と勘違いして手遅れになるケースも後を絶ちません。

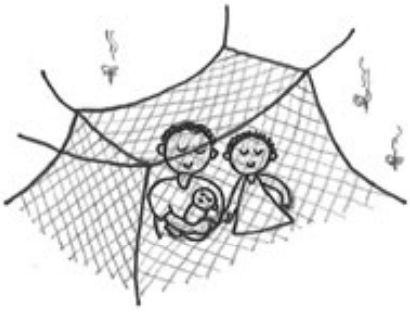
マラリア予防キャンペーン　～「難民を助ける会」活動報告～

アフリカの現地で蚊帳の配布などの活動を行っている日本のNGOはごくわずかであり、アンゴラにおいて活動を行っているのは「難民を助ける会」だけです。

「難民を助ける会」が予防教育を行う地域の公立病院では、定期検診に来る妊婦の9割の血液内にマラリア寄生虫が見つかり、新生児の多くが平均2500グラム以下の未熟児だそうです。また、アンゴラ全体の死亡原因の30%はマラリアですが、経済的に貧しい地域では、その割合は39%にも上ります。また、殺虫処理済みの蚊帳を配布することで高い予防率を誇っています。表面に触れただけで蚊が死ぬので、マラリアの撲滅にはうってつけです。この蚊帳は予防効果が高いため、ユニセフ等の国連機関や各国政府がアフリカでの普及に努めています。

ちなみに、この蚊帳は世界保健機構（WHO）の基準をクリアした、人体に影響のないものです。また、予防効果が継続するので、殺虫剤や蚊取り線香のように買い続ける必要がありません。

マラリアによる被害は全世界的にも問題になっており、2000年には国連のミレニアム開発目標で「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」を目標の1つとし、具体的には「2015年までにマラリア及びその他の主要な疾病の発生を阻止し、減少させる」という目標が設定されました。



難民を助ける会

地雷のある生活

アンゴラには数えきれないほど、地雷が残っています。そして地雷による被害を受けている人もたくさんいます。現在のアンゴラの地雷事情はどのようなものなのでしょう。

1 アンゴラの地雷に関するクイズ。これってウソ?ホント?

A アンゴラに埋められている地雷はほとんど撤去されました。

B 実は地雷ってカラフルなんです!

C 地雷は人が住む場所から離れたところに埋められています。

D 地雷に当たると命を落とすこともあります。

2 資料「地雷って何?」(→P.20)を読んで、印象に残ったところや気づいたところに線をひいて、みんなで感想を発表しあいましょう。

3 次に、資料「地雷を回避するために必要なこと〜『難民を助ける会』活動報告〜」(→P.20) を読んで、感じたことを発表しあいましょう。

4 あなたの街に地雷が埋められていると言われてしまいました。しかし、あなたはその街で生活していかなければなりません。地雷の被害をなくすために必要なことはなんでしょう。みんなで考えてみましょう。

P.19のこたえと解説です。

地雷について知ることで、日常生活を送れない人たちがいることに気づこう。

A ×ウソ　アンゴラにはいまだに800万の地雷が、その埋設場所も分からないまま残されていると推定されています。国民一人に対して1個以上の地雷が埋まっているといわれています。

B ○ホント　地雷をカラフルにすることで、子ども地雷に興味を持ちいじってみようとするからです。

C ×ウソ　幹線道路や村から数分のけもの道のような小道のわきで発見されることもしばしば。アンゴラの人は地雷と隣り合わせの生活を強いられているのです。

D ○ホント　地雷や不発弾の事故で手や足を失ってしまったり、命を落としてしまう子どもが非常にたくさんいます。

地雷って何？

地雷には「対戦車地雷」と「対人地雷」の2種類あります。「対人地雷」は通常5～10kg程度の力がかかると爆発するように設計されていて、小さな子どもが踏んでも爆発してしまいます。一度埋没されると半永久的に効力を保ち続け、紛争終結後も一般市民に被害を及ぼすことから「悪魔の兵器」とも呼ばれる兵器です。

現在、世界各国に埋蔵されている対人地雷は1億以上といわれ、現在の撤去ペースで100%安全に撤去するには1000年以上かかるといわれています。1年に撤去される対人地雷の数は約10万個。さらに、今でも毎年数千万個の対人地雷が新たに埋められているといわれています。対人地雷により死傷する人の数は年間2万5千人以上、約20分に1人の割合で命、手足、視力などが失われていることになります。地雷事故にあった人の8割は地雷があるかもしれないことを知っていながら生活に必要な薪をとったり、農作業をするために地雷原へ入らざるを得なかったと答えています。

さまざまな形の地雷

今、地雷原で暮らさざるを得ない人たちに、地雷の危険から身を守る教育や地雷被害者の自立のための支援が必要です。

地雷を回避するために必要なこと　～「難民を助ける会」活動報告～

アンゴラには推定800万個もの地雷が埋没されていると言われ、地雷が人々の生活に深刻な影響を与えています。しかし、具体的な対策は行われていませんでした。

その一方で、地雷を回避するためには正しい知識が必要です。そこで「難民を助ける会」では「地雷対策自主グループ」を結成し、

①地雷や不発弾の情報を村全体で共有
②新しく移り住んできた村人に地雷回避教育を行う
③危険な場所に目印をつける

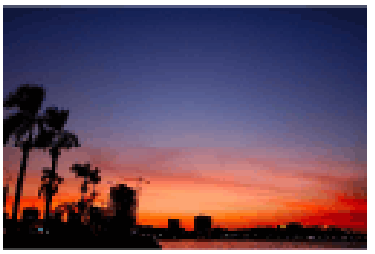
をその活動目的としています。

地雷で足を失った子ども

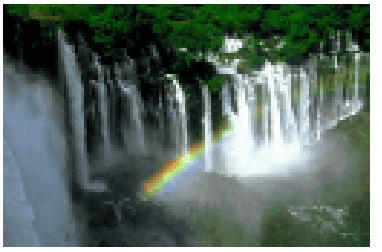
地雷回避教育では、まず村を巡回し、ポスターや人形劇を使って、地雷や不発弾の被害にあわないためにどのような行動を取ればよいかを指導しています。は時間がたつと、どうしても地雷や不発弾への注意が薄れてしまうため、継続的に活動できるようグループを結成したのです。たとえばアンゴラでは、日常生活のさまざまな場面で地雷や不発弾の被害にあう危険が非常に高く、農作業に従事している人が農作業を行なっている最中に地雷の被害にあうということがよくあります。このため、村の周りで安全に耕すことのできる土地はどこかといった情報を共有しなければなりません。動物を狩りに行く場合も同じで、アンゴラの多くの村に共通して必要なことなのです。「難民を助ける会」の活動の甲斐あって少しずつではありますが、地雷に対する正しい知識を持った人が増えていますが、アンゴラの国土から地雷をなくすには、あと30年は必要だとも言われています。

フォトギャラリー「アンゴラ大自然」

1



2



3

4

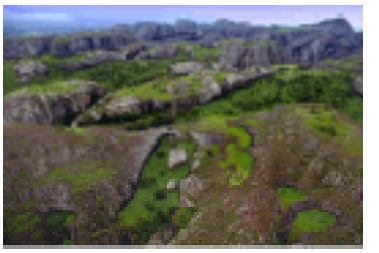
5

6

7

8

9

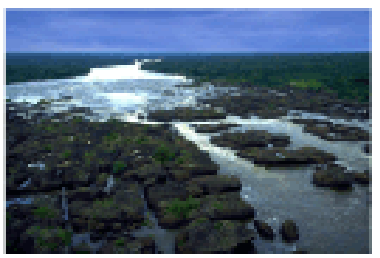


10

11

12

13



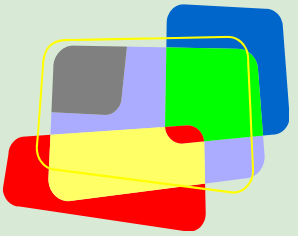
14

15

7:難民を助ける会　15:在アンゴラ日本国大使館　それ以外:駐日アンゴラ共和国大使館

第4章

そして未来へ



世界を変えるスピーチ

地球は今、様々な課題を抱えています。
あなたが今、一番気になる課題は何ですか?

1 みなさんは、「グローバルイシュー（地球的課題）」ということばを聞いたことがありますか?
原因が特定の地域だけでなく地球全体に関係している、深刻化すれば地球全体に影響がある、解決には地球全体の長期的な協力が必要である…そんな課題を「グローバルイシュー」と呼びます。
具体的にどんな課題があると思いますか? グループでできるだけたくさん模造紙に書き出してみましょう。

2 それぞれのグループが書き出した課題を発表し、みんなで共有しましょう。

3 今みんなで出し合った課題の中で、あなたが一番気になる課題は何ですか?
グループで話し合って、1つ選んでみましょう。
また、その課題について世界はどういう状況なのか、日本はどういう状況なのか、調べてみましょう。

4 さて、グループで選んだ課題を解決するための会議が開催されることになり、5分間のスピーチをすることになりました。なぜその課題に関心があるのか、その課題についてどんなことを思っているのか、その課題を解決するためにどうすればいいと思うか…などを盛り込んで、スピーチの原稿をグループのみんなでつくってみましょう。

5 では、会議の会場を想定して、実際にスピーチをしてみましょう。

ここに、「伝説のスピーチ」と言われている12歳の少女のスピーチがあります。この少女は、カナダに住む日系4世のセヴァン・カリス＝スズキ。遊ぶことが大好きなふつうの女の子です。そのふつうの女の子が、世界中のおとなたちを感動させたスピーチです。聞いてみてください。（P.25〜27）

7 スピーチをしてみてどうでしたか?
他のグループのスピーチや「伝説のスピーチ」を聞いてどんなことを感じましたか?
感想を話し合ってみましょう。

P.23のこたえと解説です。

地球の課題を知り、自分自身の課題としてその解決について考えてみよう。

グローバルイシュー（地球的課題）と持続可能な社会

「**グローバルイシュー**」には様々な課題が含まれますが、大きく「人権」と「環境」の2つに分けられます。例えば、1992年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択された、21世紀に向けた持続可能な開発を実現するための行動計画『**アジェンダ21**』では、貧困、人口問題、健康と環境、人間居住、大気保全、森林減少、砂漠と干ばつ、生物多様性の保全などの課題をとりあげています。また、2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された**ミレニアム開発目標**では、2015年までに達成すべき目標として下記の8つの項目を掲げ、189の加盟国が公約しました。

それらに掲げられているそれぞれの課題は、「貧困の問題が紛争につながる」「紛争がさらなる貧困を生みだす」「紛争は最大の環境破壊である」「環境が破壊されれば、ますます貧困になる」といったようにつながっており、原因にも結果にもなり得る悪循環をつくりだしています。さらに、地域における課題、たとえば「多文化共生」などの課題も地球の課題と共通する部分が多く、つきつめれば同じ原因で問題が起こっていたりします。

「**持続可能な社会**」とは、「持続可能な開発」、つまり、次世代のニーズを満たす可能性を損なわないで環境を利用し、現在の世代のニーズを満たす開発が行われる社会のことを言います。グローバルイシューを解決しない社会は、持続「不可能」な社会なのです。

ミレニアム開発目標（MDs）

「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバリゼーションが世界のすべての人々にとって前向きの力となることを確保することである」とする国連ミレニアム宣言では、国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対する具体的数値目標として、8の目標、21のターゲット、59の指標を掲げています。

● **貧困と飢餓をなくそう！（極度の貧困と飢餓の撲滅）**

地球上では、5人に1人が1日1ドル未満の所得で生活をし、7人に1人が慢性的な飢えに苦しんでいます。また、もっとも裕福な1%の人々が、もっとも貧しい57%の人々と同じだけの所得を得ています。所得貧困により、十分な栄養を得られない、適切な教育や保健医療を受けられない、安定した職を得られないという困難に多くの人々が苦しんでいるのです。

● **小学校に通えるようにしよう！（普遍的初等教育の達成）**

1億1,500万人の子どもが学校に通っておらず、多くは南アジアとサハラ以南アフリカに住んでいます。途上国では5人に1人が学校に通っていないことになり、その5分の3は女の子です。また、世界中の成人のうち6人に1人が読み書きできません。その数は、8億7,600万人で、その3分の2は女性です。

● **男女の差をなくそう！（ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上）**

教育を受けていない母親から生まれた子どもは、教育を受けている母親から生まれた子どもに比べ、栄養不良や5歳未満で死亡する割合が2倍になるというデータがあります。また、教育を受けた母親の子どもの就学率も高くなっています。

● **赤ちゃんを守ろう!（乳幼児死亡率の削減）**

2002年、1,000人の子どものうち5歳未満で亡くなった子どもの数は、先進国では7人、南アジアでは97人、サハラ以南のアフリカでは174人に上ります。その背景には、貧困による不十分な食糧、不衛生な水、不公平な医療サービスが挙げられるほか、紛争や災害などで抵抗力の弱い子どもたちが犠牲となっているのです。

● **お母さんを守ろう！（妊産婦の健康の改善）**

51万5,000件に上る妊産婦の死亡の99%は途上国で起こっています。先進国では、2,900人に1人の妊産婦死亡率がサハラ以南アフリカでは13人に1人です。

● **病気をふせごう！（HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止）**

HIV感染者の90%以上が途上国の人で、サハラ以南アフリカは感染者全体の70%を占めています。毎年5億人がマラリアに感染し、100万人以上が死亡しています。このうち90%はサハラ以南アフリカに住んでいます。

● **くらしを良くしよう！（環境の持続可能性の確保）**

世界の森林は、2000年までの10年間で日本の国土面積の2.5倍にあたる約9,400万ヘクタールが減少しました。そのうちの96%がアフリカと南米の熱帯林です。エネルギーの消費量は、世界の上位10カ国が全体の65%を占めており、そのほとんどが先進国です。世界の10億人以上が安全な水を利用できずにいます。下水道などの基本的な衛生施設を利用できない人は26億人にのぼります。

● **世界のみんなで助け合おう！（開発のためのグローバル・パートナーシップの推進）**

ミレニアム開発目標の達成には世界的な協力体制の下での取り組みが必要です。もはや開発は、国連や政府やNGOだけが取り組むものではありません。世界中の人々が協力しなければいけないのです。

この星をこれ以上こわし続けないで

～12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ～

こんにちは、セヴァン・スズキです。エコを代表してお話します。
エコというのは、子ども環境運動（エンヴァイロンメンタル・チルドレンズ・オーガニゼーション）の略です。
カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるためにがんばっています。
あなたたち大人のみなさんにも、ぜひ生き方を変えていただくようお願いするために、
自分たちで費用をためて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をしてきました。

今日の私の話には、ウラもオモテもありません。
なぜって、私が環境運動をしているのは、私自身の未来のため。
自分の未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとはわけが違うんですから。
私がここに立って話をしているのは、未来に生きる子どもたちのためです。
世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。
そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

太陽のもとにでるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。
呼吸をすることさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。

父とよくバンクーバーで釣りをしたものです。数年前に、体中がんでおかされた魚に出会うまで。
そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。
それらは、もう永遠にもどってはこないんです。

私の世代には、夢があります。
いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることです。
でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないか？
あなたたちは、私ぐらいの歳のときに、そんなことを心配したことがありますか。

こんな大変なことが、ものすごいいきおいで起こっているのに、私たち人間ときたら、
まるでまだまだ余裕があるようなのんきな顔をしています。
まだ子どもの私には、この危機を救うのに、何をしたらいいのかはっきりわかりません。
でも、あなたたち大人にも知ってほしいんです。あなたたちもよい解決法なんて、もっていないっていうことを。
オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。
死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。
絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。
そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

どうやって直すのかわからないものをこわしつづけるのは、もうやめてください。

ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。
あるいは、報道関係者か政治家かもしれない。
でもほんとうは、あなたたちも、だれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、
おじなんです。そして、あなたたちのだれもが、だれかの子どもなんです。

私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。
そうです。50億人以上の人間からなる大家族。
いいえ、じつは3千万種類の生物からなる大家族です。
国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。
私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして
行動しなければならないことを知っています。

私は怒っています。
でも、自分を見失ってはいません。
私はこわい。
でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私はおそれません。

私の国でのむだづかいはたいへんなものです。
買っては捨て、また買っては捨てています。
それでも物を浪費しつづける北の国々は、南の国々と富をわかちあおうとはしません。
物がありあまっているのに、私たちは自分の富を、そのほんの少しでも手ばなすのがこわいんです。
カナダの私たちは、十分な食べものと水と住まいを持つめぐまれた生活をしています。
時計、自転車、コンピュータ、テレビ、私たちの持っているものを数えあげたら何日もかかることでしょう。

2日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。
ひとりの子どもが私たちにこう言いました。
「ぼくが金持ちだったらなぁ。もしそうなら、家のない子すべてに、食べものと、着るものと、薬と、住む場所と、
やさしさと愛情をあげるのに。」
家もなにもないひとりの子どもが、わかちあうことを考えているというのに、
すべてを持っている私たちがこんなに欲が深いのは、いったいどうしてなんでしょう。
これらのめぐまれない子どもたちが、私と同じぐらいの歳だということが、私の頭をはなれません。
どこに生れついたかによって、こんなにも人生がちがってしまう。
私がリオの貧民街に住む子どものひとりだったかもしれないんです。
ソマリアの飢えた子どもだったかも、中東の戦争で犠牲になるか、
インドで物乞いしていたかもしれないんです。

もし、戦争のために使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決するために使えば、
この地球はすばらしい星になるでしょう。
私はまだ子どもだけど、そのことを知っています。
学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに、世の中でどうふるまうかを教えてくれます。
たとえば、
争いをしないこと
話し合いで解決すること
他人を尊重すること
ちらかしたら自分でかたづけること
ほかの生き物をむやみに傷つけないこと
わかちあうこと
そして欲ばらないこと

ならばなぜ、あなたたちは、私たちにするなということをしているんですか。

なぜあなたたちが今、こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。
そしていったいだれのためにやっているのか。
それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。
みなさんはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち、生きていくのかを決めているんです。

親たちはよく「だいじょうぶ。すべてうまくいくよ」といって子どもたちをなぐさめるものです。
あるいは、「できるだけのことはしてるから」とか、「この世の終わりじゃあるまいし」とか。
しかし大人たちは、もうこんななぐさめの言葉さえつかうことができなくなっているようです。

おききしますが、
私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。
父はいつも私に不言実行、つまり、
なにを言うかではなく、なにをするかでその人の値打ちが決まる、といいます。
しかし、あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。
あなたたちはいつも私たちを愛しているといいます。
しかし、いわせてください。

もしそのことばがほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめしてください。

最後まで私の話をきいてくださってありがとうございました。

『あなたが世界を変える日〜12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ』
セヴァン・カリス=スズキ／著　ナマケモノ倶楽部／編・訳　学陽書房発行

地球サミット

この伝説のスピーチは、1992年6月11日、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連の地球サミット（環境と開発に関する国際連合会議）の会場で、世界の指導者たちを前に行われました。

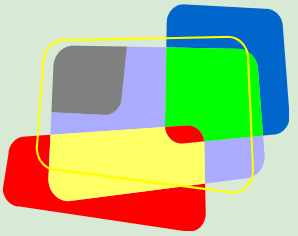
リオの地球サミットは、1992年6月3日〜14日開催され、約180の国と地域の代表、国連機関、約8,000のNGO（非政府組織）が参加、延べ4万人を超える人々が集まった史上最大規模で、その後の様々な活動に大きな影響を与える会議となりました。

この会議では、持続可能な開発に向けた地球規模の新たなパートナーシップを構築するための「環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言（リオ宣言）」とその行動計画「アジェンダ21」が合意されました。また、「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」が提起されました。会議開催後、「生物多様性」といった用語が一般にも知られるようになり、さまざまな地球環境問題や生態系、絶滅危惧種等に対する一般の関心が高まるきっかけになりました。

国際連合による環境や開発を議題とする会議は約10年ごとに開催されており、2002年に南アフリカ共和国のヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（環境開発サミット）」は第2回地球サミットとも呼ばれています。

なお、この第2回地球サミットをきっかけに日本の提案により、2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決定されました。これは、「環境教育」「開発教育」「人権・平和教育」を3つの柱とし、「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」を目的としています。

参 考 資 料



目で見るアンゴラ

1975年11月に独立した後も、長くて厳しい内戦が続きましたが、2002年4月4日に停戦合意が成立、ようやく戦火がやみました。
国旗の赤は独立戦争で流された血を、黒は闘争を戦いぬいた国民を表しています。歯車は工場労働者を、刀は農民を象徴し、今では崩壊したソ連圏との連帯を表しています。

●人口●

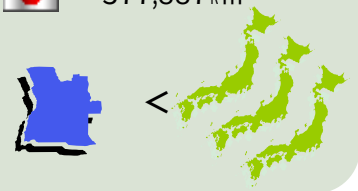
17.02百万人（2007年世銀）

128.2百万人

● 面積 ●

1,247,000㎢
（日本の約3.3倍）

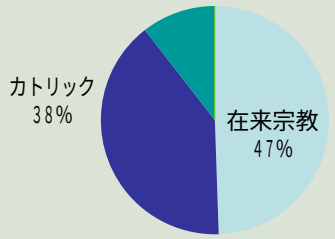
377,887㎢



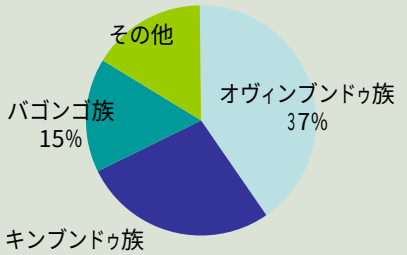
● 言語 ●

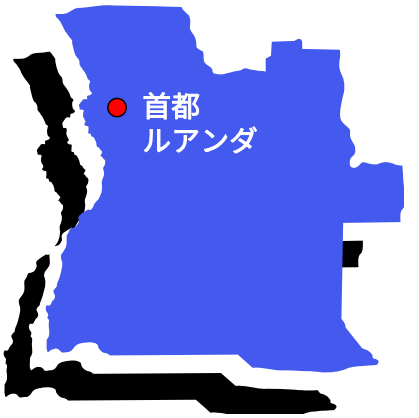
ポルトガル語(公用語)
その他ウンブンドゥ語等

●宗教●



●民族●





●気候帯●

北部：熱帯サバナ気候　　南部：温帯夏雨気候
海岸地帯、ナミビア国境付近：ステップ気候、砂漠気候

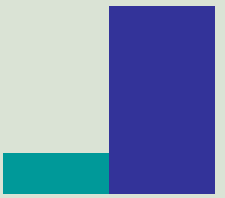
●通貨●

クワンザ(KZ)
1米ドル=約77クワンザ
(2009年4月現在)

●平均気温●

ルアンダ　名古屋
24.4℃　15.4℃

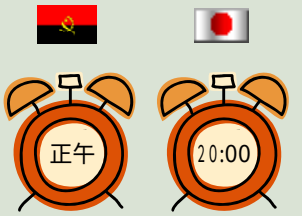
●年間降水量●



ルアンダ　名古屋
339.4mm　1565mm

●日本との時差●

－8時間



◆国旗：『世界の国旗』吹浦忠正監修（Gakken） ◆人口・面積・首都・民族・通貨：外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 ◆日本の人口：世界子供白書2009（ユニセフ） ◆日本の面積：総務省統計局「日本の統計」 ◆気候帯：外務省ウェブサイト「探検しよう！みんなの地球」 ◆平均気温：JICA国別生活情報 ◆年間降水量：外務省ウェブサイト「在外公館医務官情報」 ◆名古屋の平均気温・年間降水量：気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」（S46～H12年の平均） ◆言語・日本との時差：世界の国一覧表（財団法人世界の動き社）

●主要産業●

鉱業
石油、ダイヤモンド
農業
とうもろこし、フェイジョン豆、
砂糖、コーヒー、サイザル麻

●日本との貿易主要品目●

原油、魚介類、飼料（アンゴラ→日本）

車輌、鉄鋼製品、機械類・部品（日本→アンゴラ）

●一人あたりのGNI●

アンゴラ：2,560米ドル（2007年世銀）

日本：37,670米ドル（2007年世銀）

●在留邦人数●

101人（2008年11月現在）

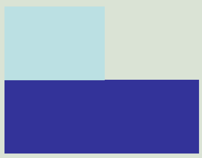
●在日アンゴラ人数●

7人（2007年12月末現在）

●出生時の平均余命●

アンゴラ：42年

日本：83年



●都市人口の比率●

アンゴラ：55%（2007年）

日本：66%（2007年）

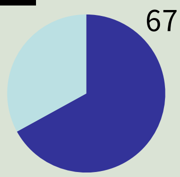
●5歳未満児の死亡率●（出生1000人あたり）

アンゴラ：158人（2007年）

日本：4人（2007年）

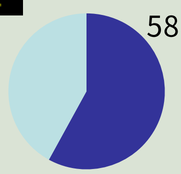
●成人の総識字率●（2000～2007年）

アンゴラ：67%



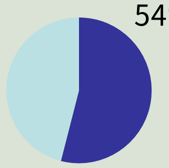
●初等教育純就学/出席率●（2000～2007年）

アンゴラ：58%



●1日1ドル以下で暮らす人の比率●（2005年）

アンゴラ：54%

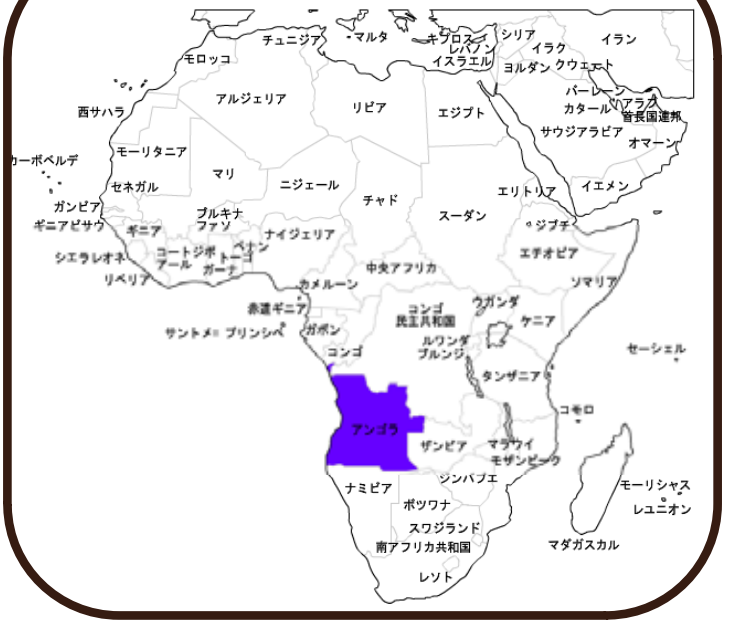


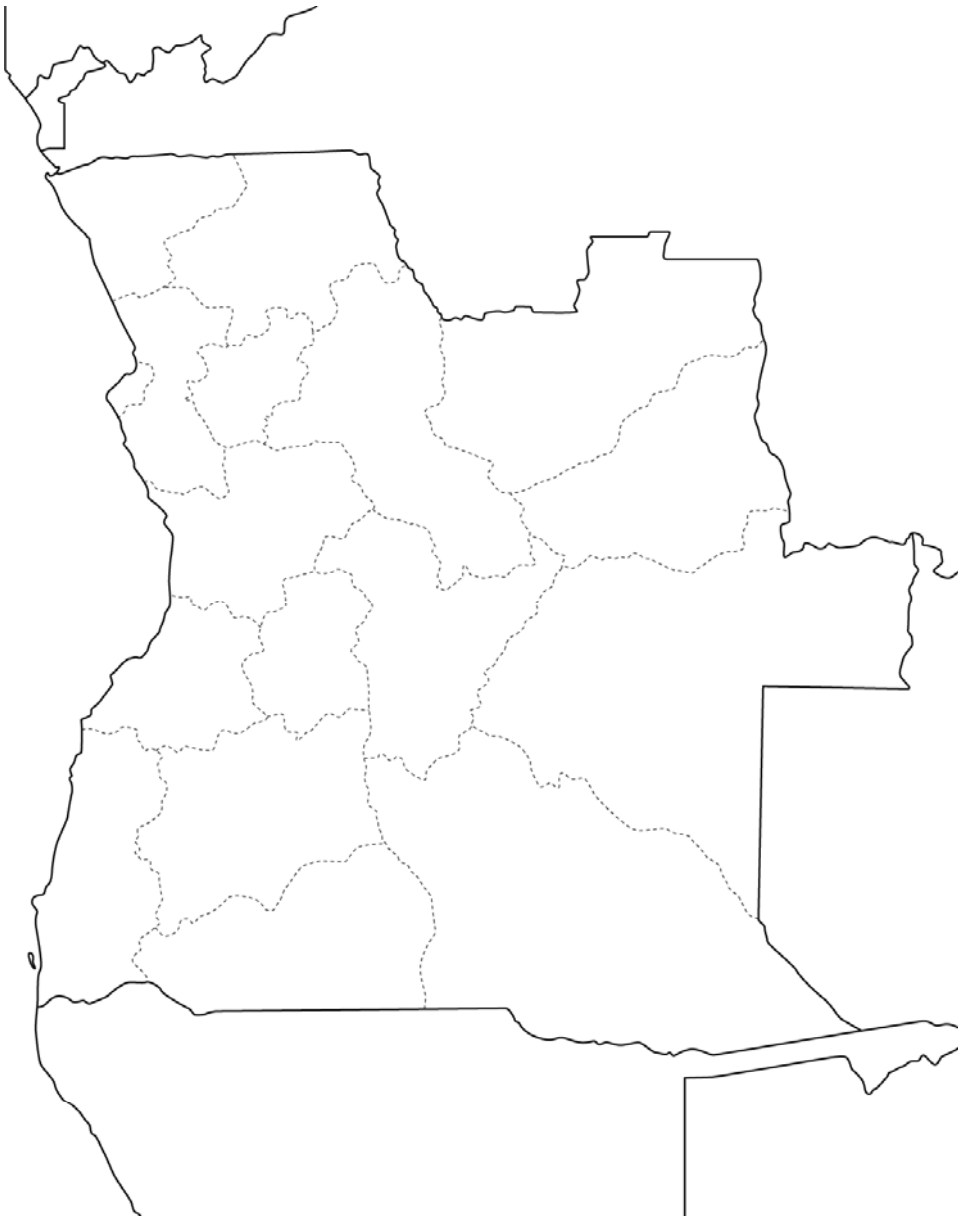
◆主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日アンゴラ人数：外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 ◆一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・1日1ドル以下で暮らす人の比率・成人の総識字率・初等教育純就学／出席率：世界子供白書2009（ユニセフ）

アンゴラ地図

コンゴ
カビンダ
コンゴ民主共和国
ザイーレ
ウィジェ
クアンザ・ノルテ
マランジェ
ルンダ・ノルテ
ルアンダ
ベンゴ
ルンダ・スル
クアンザ・スル
ビエ
ウアンボ
ベンゲラ
モシコ
ウィラ
ザンビア
ナミベ
クアンド・クバンゴ
クネネ
ナミビア
ボツワナ

アフリカ


チュニジア
マルタ
キプロス
シリア
イラク
イラン
レバノン
イスラエル
ヨルダン
クウェート
モロッコ
アルジェリア
リビア
エジプト
バーレーン
カタール
バハラス
首長国連邦
サウジアラビア
オマーン
西サハラ
モーリタニア
カーボベルデ
マリ
セネガル
ニジェール
チャド
スーダン
エリトリア
イエメン
ガンビア
ギニアビサウ
ギニア
ブルキナファソ
ナイジェリア
ジブチ
シエラレオネ
コートジボアール
トーゴ
ガーナ
エチオピア
リベリア
中央アフリカ
ソマリア
カメルーン
赤道ギニア
ウガンダ
コンゴ民主共和国
ケニア
サントメ・プリンシペ
ガボン
コンゴ
ルワンダ
ブルンジ
セーシェル
タンザニア
コモロ
アンゴラ
ザンビア
マラウイ
モザンビーク
ジンバブエ
ナミビア
ボツワナ
スワジランド
南アフリカ共和国
レソト
モーリシャス
レユニオン
マダガスカル



アフリカ

参考文献・データ等の出典

- 外務省「各国地域情勢」
  http://www.mofa.go.jp/mofaj/
- 外務省「探検しよう！ みんなの地球」
  http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html
- 総務省統計局「日本の統計」
  http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm
- 財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2009」
  http://www.unicef.or.jp/library/index.html
- 在アンゴラ日本国大使館
  http://www.angola.emb-japan.go.jp/index.htm
- 認定NPO法人難民を助ける会
  http://www.aarjapan.gr.jp/index.htm
- 駐日アンゴラ共和国大使館
  http://www.angola.or.jp/japanese/index.php
- 世界の料理総合情報サイト e-food
  http://www.e-food.jp/
- りすぼんうまいもの日記
  http://lisboeta.exblog.jp/
- 大使館の食卓
  http://www.bsfuji.tv/top/pub/embassy.html

ご協力いただいた方たち 【敬称略】

- 竹中梢子
- 堀越芳乃（難民を助ける会）

2009年度教材作成チーム

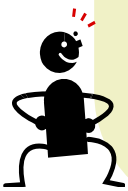
安城市　長久手町
東海市　甚目寺町
東海市国際交流協会　東郷町
みよし市
特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター
財団法人 愛知県国際交流協会

世界の国を**知る** 世界の国から**学ぶ**

わたしたちの**地球**と**未来**

アンゴラ共和国

2010年3月

発行編集 財団法人 愛知県国際交流協会
〒460－0001
名古屋市中区三の丸二丁目6番1号
あいち国際プラザ
TEL：052-961-8746　FAX：052-961-8045
E-mail：koryu@aia.pref.aichi.jp
URL：http://www2.aia.pref.aichi.jp

印刷 トッパン・フォームズ株式会社